



● 今月のご紹介者

パナソニック交野株式会社 代表取締役社長 高松 幸一 氏

『虹色のチョーク』 著 / 小松 成美 出版社 / 幻冬舎

働く幸せを実現した町工場の軌跡



【概要】

「彼らこそ、この会社に必要なんです」社員の7割が知的障がい者である“日本でいちばん大切にしたい会社”を、小松成美が描いた感動のノンフィクション。人は働くこと、人の役に立つことで幸せになれる——。神奈川県川崎市にあるチョーク製造会社・日本理化学工業株式会社は、昭和12年に小さな町工場からスタートした。昭和36年に二人の少女を雇い入れたことをきっかけに、障がい者雇用に力を注ぎ、「日本でいちばん大切にしたい会社」として全国から注目を集め続けている。現在も社員86名のうち、63名が知的障がい者。一人一人の能力に合った仕事を作ることで、彼らが製造ラインの主戦力となり、社員のほとんどは定年まで勤め上げる。同時に、彼らの作るダストレスチョークは業界シェア1位を誇る。今でこそ福祉と経営の両面で注目を浴びるが、ここに辿り着くまでには数々の苦悩と葛藤があった——。本書は、日本理化学工業の会長や社長、働く社員、さらには、普段語られることの少ない障がい者のご家族へのインタビューを通して、「働く幸せ」を伝える一冊。

Q1：この本を手にとられたきっかけについて

社長就任して間もない頃、会社経営における障がい者雇用の在り方について悩んでいたときに、偶然本屋で見かけ購入しました。弊社は、第3セクター方式の特例子会社（障がいのある方の雇用を命題とした会社）のため障がい者の働き方に対する関心が高く、未経験な私にとってはバイブルとしての一冊となりました。

Q2：この本をお勧めしたい理由について

障がい者雇用を通して「生きることや働くこと、喜びや悲しみといった人間の本質を考えさせ、気づかせてくれる」とは取材先のチョーク会社会長様の言葉で心に刺さります。人の持つ無限の可能性についても気づかされます。人を預かる立場として、個人が輝く場やしくみをつくるのが企業にとって欠かすことができない取り組みであることを確認できます。障がい者の方が現場で役割を發揮し、しっかり戦力となって会社を支えている姿にはオートメーションにない人のエネルギーを感じます。社員の皆さんの責任感や高度な集中力、持続力は働く喜びの現れと思います。

「根拠のない自信」がパワーを發揮する。大きな壁にぶつかったとき、「絶対できるに決まっている」という思いを込める。そうして走っているうちに、状況がどんどん変わってくる。こういった話が実体験をもとに語られています。ノウハウ本ではないですが、壁に当たった時にどう打開すればいいかのヒントを彼の経営の姿勢から学ぶことができると思います。

Q3：こういった方にお勧めしたいですか

全ての方にお勧めします。障害のある方もない方も共に同じ空間（職場）で働くことで気づかせられた生きることの意味はコロナ禍で閉塞感がある今こそ読んでいただきたいです。

**Panasonic**  
 パナソニック交野 株式会社  
 本社：交野市4丁目590番地の1  
 資本金：5,000万円  
 創業：1982年12月  
 事業内容：アビオニクス、モバイルソリューションズ、メディアエンターテインメント事業関連